

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100035		
法人名	株式会社 ひまわり		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-27		
自己評価作成日	令和5年1月14日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島県広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者本人が自然にホールに集まったり、他者の部屋に行き来し、自由気ままにおしゃべりができるような雰囲気が出ています。また、レクリエーションやゲームを通じて定期的に馴染みの関係を改めて作れるようにしています。</p> <p>それぞれの主治医による往診、受診に付き添っています。看護師による定期的な健康チェックも行い、指導を得ています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所の特徴は、代表者、施設長、管理者は、職員と常にコミュニケーションを取っており、勤務体制や業務改善など提案があれば、それを受け話し合いを行い改善に繋げ、運営に活かしている。市町との関わりは法人と事業所は役割分担しており、それぞれの担当者と日頃から関係を築き、サービスの向上に繋げている。災害対策についてはハザードマップで、地理的環境を把握し、訓練を通して情報を共有し、可視化することで素早い対応が取れるようにしている。更には地域とは有事において求めるだけでなく、地域に何が出来るかを確認し、地域に貢献出来るよう更なる進化した対策に努めている。利用者は同じような環境や気質の地域住民が多く、日々自由でのびのびと暮らし、職員は見守り中心で理念に基づいた穏やかな暮らしを支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しており、職員同士で再確認して共有できるようにしている。	法人代表者は、自宅で暮らしているようにとの思いを込めて、案内のための看板等を出していない。そんな思いのもとに理念はつくられた。職員は利用者が自分らしく暮らせるよう理念の意義を共有し、ミーティングを通じて利用者の思いを汲み取り、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通院の後などに地域に出掛けられるようにしている。	町内の回覧版で地域の情報は得られる。現況では地域行事には参加出来ないが、利用者は地元の住民が多い。人口が少ない地域ではあるが、散歩の時に挨拶を交わす事もあり、職員は感染が落ち着けば島内の桜を見に、ドライブに出掛けるための計画もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に写真を通して認知症利用者の関わり方などを説明している。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価を実施することで提供しているサービスの自覚、確認をしている。外部から見えてくる改善点を取り入れている。	事業所は自己評価の作成にあたり、管理者と職員は話し合いを行い、日々の支援状況を客観的に評価を行う事で、サービスの質の向上のための目的を理解している。また今後のステップアップが期待される点も把握し取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り組んでいる様子を説明していき、意見をいただくことによってサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は書面会議の時もあるが定期的に行われ、地域包括支援センター職員や関係者が参加している。会議は事前に家族や関係者に電話で意見を求めているが、取り組み内容は報告のみが多い。	会議の内容として、行事や職員研修、ヒヤリハット等、日頃取り組んでいる内容を伝え、その結果も記載されると更に充実する。今後の改善課題として情報を共有するための対応を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見のやり取りや疑問点を電話で聞きこんだりしている。	市町の担当者との連絡は本社の施設長が行い、必要な情報は本社から管理者に伝えられている。また日頃の相談は市町の担当者は異動が少なく、管理者は顔馴染みの関係で、日頃から連携を築いている。また県社協から研修の案内など必要な情報を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会での資料を職員に確認してもらい、理解してもらっている。玄関の施錠はオートロック式になっており、利用者の要望があれば寄り添いの元外出している。	身体拘束とその影響は、定期的開催している会議に参加し職員は理解している。支援の在り方も言葉の使い方や車イスでの長時間の使用など、事例をもって話し合いを重ね、拘束の3要件やその他の不適切ケアにも気配りしながら支援に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	巷で起こった事件などを例に挙げて申し送り時や話し合いに取り上げている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを通して説明したところであるが話し合いまではできていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には利用者、家族が主体的に話ができるよう不安な気持ちを酌んで丁寧に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情などがあれば意見箱や直接管理者、職員に訴えられるよう日頃から本人や家族に伝えている。電話等にて疑問点の汲み取りもしている。	家族からの要望で一番多いのは自由な面会である。しかしながら現状ではガラス越しで、短時間の面会をせざるを得ない状況である。職員は利用者の暮らしぶりを、家族に伝えるため許可を得た利用者の様子の写真を、送付するなど、家族の安心に繋がるよう支援している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の意見を聞いている。代表者も定期的に訪れては話を聞いている。	事業所は、働きやすい環境を作る為の体制づくりはある。職員からの意見は会議の場のみならず、個人面談など様々な場面で行っている。またシフトの変更や記録の書き方など、日々の細やかなケアの工夫など話し合い、職員から様々な情報を得て、業務改善が行われた事例がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者、代表者から管理者への連絡を密にし、管理者は職員からの意見を挙げていったり、代表者も直に職員から話を聞いている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響にて研修に行ったり行う機会に乏しくなっているが申し送りの延長として研鑽できるようにしている。	本社長と施設長は定期的に事業所を訪問し、職員は直接意見する機会がある。管理者は、全職員に平等に接することで、職員が意見を出しやすくなるよう工夫している。研修や資格取得なども必要に応じて反映させている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響もあり交流の機会ができていない。内部での交流によってサービスの向上について話してはいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	あらかじめ本人の生活歴を職員全員で把握し、本人と話を深めることによって不安感の軽減に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ならではの本人への思い、意向を汲んでいけるよう十分に話しあってからのサービス導入になっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々での支援の方法などを他の家族の例を挙げながら話し合っ安心してできるよう対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で過ごす仲間として距離感を調節しながら家族のような関係を作れるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡等を密に行い、共に支え合うような関係を本人も入れて築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの病院や医院での医療を継続したり、馴染みの方からの電話対応などを行っている。	コロナ禍で外泊や外出が出来ないが、家族の葬儀のため短時間ではあるが外出した事例はある。馴染みの場所に出掛けにくい為、定期的な美容師の訪問がある。病院に受診の際は、帰宅時に自宅付近をドライブしたり、職員は利用者が希望することを把握し支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あらゆる個性の調節を職員が意図的に行い、共に作業したり遊べたりする環境を作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や転所先でも連絡をしていき、共にフォローできるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	突如として表れる本人の思いや希望などに耳を傾けていき、生活歴などと照らし合わせて少しでも気持ちが和らげるよう配慮している。	利用者の思いは日々の関わりの中で職員が聞き取り、計画作成担当者に伝えている。意向の把握が困難な場合は、申し送りノートや職員の意見を参考に、体調や食事の摂取量、顔色や表情、様子なども含め全職員の意見を取り入れて方針を決めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	健康記録簿にも本人の生活歴を書き込んでおり、サービスを組み合わせれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別性を重視し、本人の状態、気分によって柔軟に対応できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が良しとする暮らし方ができるよう職員同士がアイデアを出しながら計画を練っている。	家族の意見を聞きながら介護計画を立てている。職員は利用者の日々の様子を観察し、計画に沿って月に1回のモニタリングを行い、カンファレンスにおいて見直しが必要な場合は、例えば皮膚に軟膏を塗る時間帯を見直した事で効果があったなど、現状に即した見直しを行い介護計画に反映している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康記録、生活記録等を照らし合わせながら本人の変化や意向にマッチできるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助の選択肢などを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの環境下でもあるためボランティアの招待や地域へ赴けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医やその時々で必要であろう医療との関係づくりをしている。	利用者全員が事業所のかかりつけ医に、4週間に1回定期的に来所してもらい受診している。職員は常に利用者の状態を把握し、何かあればかかりつけ医と連携し、オンコールで素早い対応を確保している。また必要に応じて歯科受診や、他科受診も適切に行われている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や気づきを看護師に伝え助言を受けている。受診が必要であるということであれば受診に繋げている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になりそうな時にはサマリーを作り、説明の上、手渡している。入院時には医療機関に赴き様子を聞いている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化での対応指針を契約時に説明している。適切な医療機関、施設へ橋渡しできるよう家族や他施設の職員と連絡を取り合っている。	利用開始時に事業所の方針で看取りは行わない事を、家族に説明し了解を得ている。重度化した場合は家族の希望を確認し、かかりつけ医の指示のもと、他の医療機関や施設等を紹介している。職員は利用者や家族に寄り添い、事業所の方針に従った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成している。看護師による応急手当などの方法も定期的に行っている。	急な発熱や誤嚥・窒息、転倒などに加え、新型コロナウイルス対応などを含め、常に話し合いを行っている。実際に突発的な事故や体調の変化が起きた時は、看護師から対応の方法や実践を踏まえながら訓練し、職員間で共有し緊急対応力を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回行っている。災害時の避難場所は見やすい場所に掲示し常日頃から確認し合えるようにしている。	年2回の避難訓練は行っている。コロナ禍の影響もあり近隣の協力は困難である。また風水害が多発しており、職員はハザードマップを活用しながら、事業所の位置や危険性を把握し、常に有事での避難経路を確認しながら取り組んでいる。備蓄はローリングストックを行いながら確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心に気遣いながら声掛けや介入をしている。	事業所内でプライバシー保護の話し合いは行われている。職員は申し送り時に接遇の勉強を行い、例えば利用者へは苗字で呼び掛け、記録の書き方も気を配り職員同士が注意しあい、人格を損なわない対応を心掛けている。管理者は日々の支援で職員が適正な対応が行えるよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の嗜好に合わせた食事の提供や、本人が選択できる機会を設けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーションの声掛けをし、本人の気分が乗らない時等には本人の意思に合わせた行動ができるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の美容院の訪問にてカットでき、利用者によっては化粧水などを配備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を利用者と行いながら徐々に人が集まっていけるようにしている。本人の嗜好に合わせて代替品などにて調整している。	コロナ禍で手作りだった食事は配食に変更した。暖か味のある食卓に配慮し職員は、器を提供し楽しい食卓を演出している。誕生日や行事等の折には、事業所は四季折々の食事を大切にしながら、食事環境もテーブルの配置や椅子の高さ調整等、利用者一人ひとりに気を配り食事を支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲がない日や食事が進まなかった日などは家人持ち寄りの好物や栄養補助食品などを提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に緑茶を使ってのうがいや就寝前の歯磨きや義歯洗浄をおこなっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の行きたい時にトイレに向かえるようにし、排泄の頻度をチェックしている。状態によってはポータブルトイレを居室に設置している。	フロアには車イス対応を含めトイレは3か所ある。夜間はポータブルトイレの利用者はいるが、見守りやセンサーを活用した支援をしている。更に利用者の食事や運動等を行い、便秘が改善した事例もある。職員は排泄の自立に向け、機能低下につながらない支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促すためにも運動の大切さを説明し体操やレクリエーションを行っている。滞っている時には牛乳を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望を聞いていき、好きな時に入浴できるようにしている。その時は嫌がっても時間を空けて再度希望を聞いていけるようにしている。	入浴は2日に1回午前から、利用者の習慣や状態に合わせて行い、現在は入浴困難な利用者はいない。基本的には入浴剤は使用しないが、入浴後は希望者には軟膏やローションを使い保湿に心掛けている。入浴環境も冬場の室温や湯温管理に気を配り、その人に合った入浴方法を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に他の利用者とおしゃべりしたり、家事をしたりできるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用量を書き込んでいるファイルを見ながら配薬できるようにしている。きちんと服用したかの確認をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしゃべり好きな利用者が多いのでレクリエーション時等に自分の話し出したことを質問などをして話を広げている。	利用者は体操・歌・トランプ・百人一首、レクリエーションや家事の好きな人には、職員と共に家事作業をしている。中には縫物が得意な利用者もあり、それぞれが自由に過ごせる空間がある。また皆で行う四季折々の行事も楽しんでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で外出の機会に乏しい。通院介助の帰りに近隣へのお出かけをしている。	コロナ禍で出掛ける事が困難な状況で、職員は利用者を感じる外出を考え、天気の良い日は併設のデイサービスのベンチで外気浴を行い、デイサービス利用者と挨拶を交わしている。今年は桜見物のドライブも計画する等、職員は出来る限り出掛ける工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホーム側でいる。本人要望があつたり必要品があれば家族に連絡の上立て替えて家族に請求している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族との電話の取次ぎをしている。家族からの手紙や電話などもある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって掲示物を更新したり、職員の工芸品を掲示している。最近撮った写真の掲示もしている。	日中は歌を歌ったり、テレビは好きな番組を鑑賞して楽しんでいる。仲の良い利用者がおしゃべりを楽しむことも多く、賑やかでみんなと一緒にいる共用空間がある。壁には手作り作品が所要所に飾られ、またフロアを散歩したり自由に過ごしている。心地よい室内は清潔で衛生管理も行っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるホールでか自由にソファに座ってテレビを観たり、本を取り出して見たりしている。少人数でおしゃべりしやすい雰囲気づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に以前の住み家からの持ち寄りや昔から使用していた道具などを置けるようにしている。	居室の入口付近には書初めを貼って、利用者が部屋を間違えない工夫がある。入口から障子の窓が見え室内を和の雰囲気になっている。床はフローリングや畳の部屋があり、備え付けのエアコンや洗面台、ベッド、クローゼットもある。利用者の中にはソファやテレビを持参し思い思いに過ごし部屋の掃除は職員が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	地面に落ちている物を利用者が気にして拾おうとしたり、少しの隆起につまずかないよう職員がすぐに拾ったり、机の位置などで隆起物につまずかないようにしている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームこすもす

作成日

令和5年4月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	会議の中で利用者の生活状況やサービス内容に終始することが多かった。	職員研修やヒヤリハット、外部評価にて助言をいただいた内容等も運営推進会議にて報告していく。	運営推進会議にて外部評価の結果を書き出し、口頭にて説明していく。	2ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。